

第九稿

大岡川（大岡川分水路と河川空間の利用）

大岡川は、横浜の心臓部を流れる延長約14km、流域面積約35km²の2級河川です。横浜市庁舎の目の前を流れており、横浜を象徴する川の一つとなっています。

第九稿は、大岡川分水路や大岡川下流域での河川空間の利用について紹介します。

1 都市化による治水面の課題

第八稿で紹介した派大岡川沿いに整備された国鉄根岸線は、1964(昭和39)年に桜木町駅から磯子駅までの区間が開業した後、1970(昭和45)年に洋光台駅まで延伸され、1973(昭和48)年に大船駅まで開業しました。昭和40年代に入ると、根岸線の延伸に合わせて大岡川上流域や日野川流域にあたる洋光台、港南台などで宅地開発が急速に進み、流出量が増大し浸水被害が多発するようになりました。当時、お三の宮付近では開発前に比べ4倍となる計画雨量となることが分かりましたが、大岡川中下流域では市街化の進展状況等から河道の拡幅を行うことが困難な状況にありました。



大岡川分水路
トンネル内の様子



洋光台付近の開発(磯子区)、下中央付近は日野小、
下左右に日野川、左上は杉田方面、1969(昭和44)年頃



大岡川氾濫状況、与七橋付近、昭和36年頃

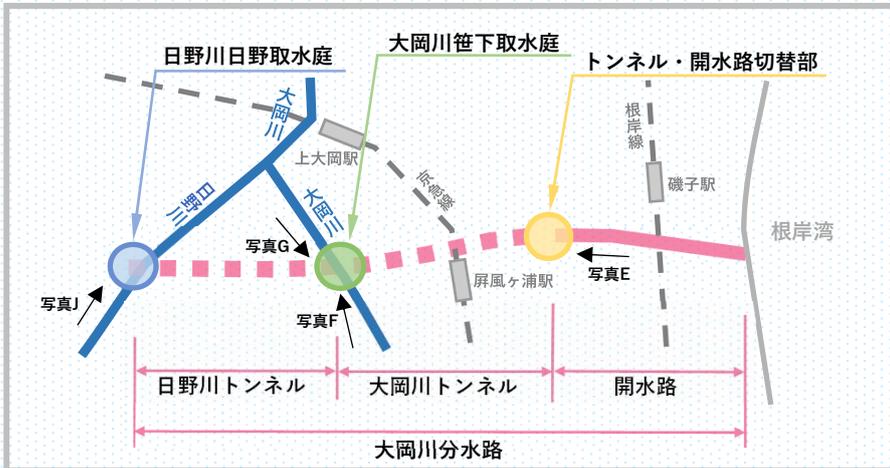


大岡川氾濫状況、観音橋付近、昭和36年頃

2 大岡川分水路

大岡川中下流域での河道拡幅が困難であったため、治水対策を抜本的に見直し、新たに大岡川上流域と日野川からの洪水を全量カットし根岸湾に流す、大岡川分水路を整備しました。完成後は、分水路より下流での大きな水害は発生しなくなりました。

大岡川分水路は、総延長3,637m、毎秒415m³の分水流量を有し、2本のトンネル（日野川トンネル：延長1,269m 内径8.9m、大岡川トンネル：延長1,298m 内径10.6m）と開水路並びに取水庭により構成されています。事業は神奈川県と横浜市の共同で、昭和44年度から開始し、主に横浜市がトンネル区間、神奈川県が開水路区間を施工しました。トンネルを作るための地下を使用させていただく地上権設定契約は約23,000m²となり、多くの方々のご協力のもと、昭和55年度に完成しました。

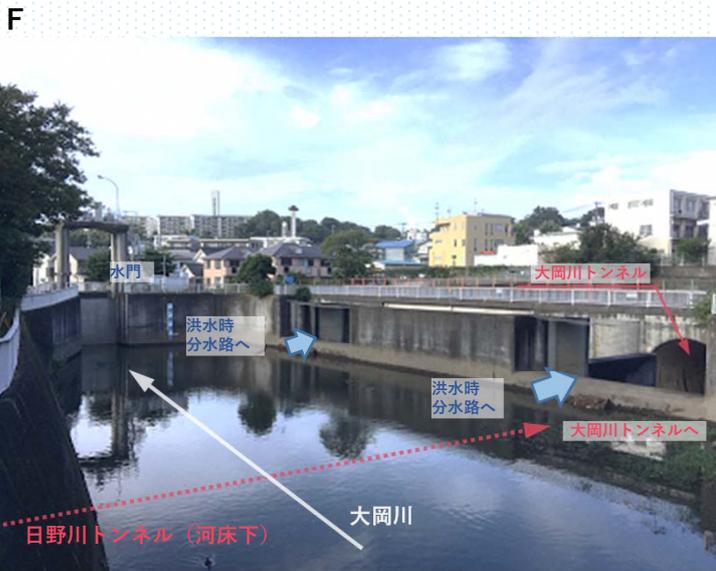


開水路区間



奥は大岡川トンネル、上空の高架橋は環状2号線 森支線
根岸湾へ

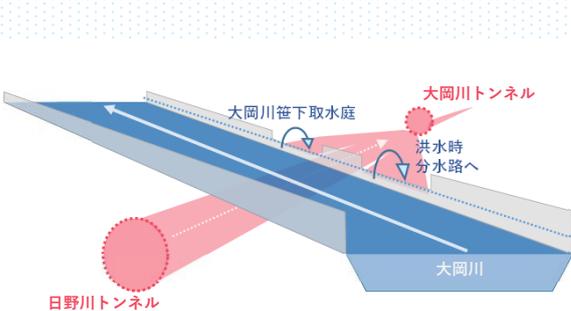
大岡川笹下取水庭、大岡川トンネル



大岡川笹下取水庭（大岡川上流側より）
奥は大岡川下流域方面、右は大岡川分水路へ流れる越流堰



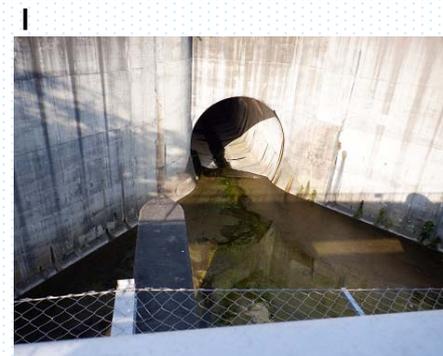
大岡川笹下取水庭（大岡川下流側より）
左は大岡川分水路へ流れる越流堰



写真F、Gの概要図



中央は日野川トンネル、左右は越流堰、奥は大岡川



奥は大岡川トンネル



日野川日野取水庭（日野川上流より）



水門



日野川トンネル

3 河川空間利用の拡大

大岡川分水路が完成し治水安全度が向上した後、現在の大岡川下流域では良好な河川空間形成の取組を行っています。従来、河川敷地内での占用は、公共性、公益性を有する者等に限定されてきましたが、平成23年に河川敷地占用許可準則が一部改訂となり、一定の要件を満たす場合、営業活動を行う事業者等が河川敷地を利用することが可能となりました。この改定により、社会のニーズに合わせて占用に関する規制が緩和され、河川とまちが融合した空間形成が促進されました。

占用に関する規制緩和

<p>占用施設： 公園、橋梁等の公共施設</p>	<p>規制緩和 →</p>	<p>イベント施設、オープンカフェ等</p>
<p>占用主体： 地方公共団体等の公的主体</p>	<p>規制緩和 →</p>	<p>民間事業者、協議会（共に市町村が連携） 営利活動が可能に</p>

4 かわまちづくり

「かわまちづくり」とは「河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指す取組み」のことで、地域を活性化するため、地域の景観、歴史、文化及び観光基盤などの資源を活かし、民間事業者、地元住民、河川管理者及び市町村が連携し、地域の空間形成を目指しています。

平成21年度には、国土交通省が地域の「かわまちづくり」の取組を河川管理者が支援する「かわまちづくり」支援制度を創設し、河川管理者がソフト施策・ハード施策の支援を行うことができる仕組みが確立されました。

かわまちづくり支援制度の概要

かわまちづくり支援制度

かわまちづくり推進主体が立案する水辺や河川で実施する実現性の高い利活用計画の実行を河川管理者が積極的に支援する制度。

推進主体

- 1 市町村、
- 2 市町村及び民間事業者、
- 3 市町村を構成員に含む法人格のない協議会

河川管理者が行う支援

- 1 ソフト施策
 - ・かわまちづくりの実現に向けて必要となる調査・検討
 - ・全国の良好な整備事例など、推進主体への情報提供
 - ・地域活性化の観点から地域が主体となって実施するイベント施設やオープンカフェの設置等、地域のニーズに対応した河川敷地の多様な利用を可能とするための支援
- 2 ハード施策

河川管理者は、まちづくりと一体となった治水上及び河川利用上の安全・安心に係る河川管理施設の整備を推進する。

5 横浜市地区かわまちづくり計画

横浜市地区かわまちづくり計画は、平成21年に大岡川（下流部）、中村川、堀川、掘割川の4河川において、神奈川県と共同で策定し、親水護岸や防災拠点整備を進め、地域の活性化に取り組んでいます。本計画の取組は、前身の計画にあたる大岡川河川再生計画（平成12年に神奈川県が策定）から継続して進めており、これまで市庁舎横にある北仲通地区の親水護岸を始め、日ノ出町地区、黄金町駅周辺地区、蒔田公園地区で親水護岸及び栈橋等の整備が完了し、現在では地域のイベントやカヌー体験教室等で利用され、地域に親しまれています。

ハード施策

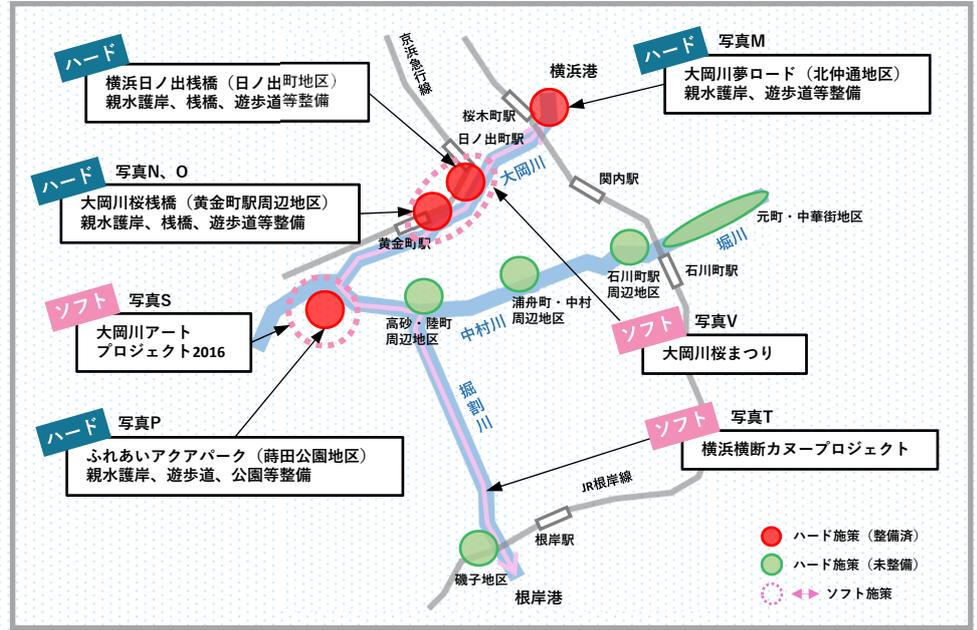
大岡川夢ロード（北仲通地区）
 横浜日ノ出栈橋（日ノ出町地区）
 大岡川桜栈橋（黄金町駅周辺地区）
 ふれあいアクアパーク（蒔田公園地区）

M



大岡川夢ロード（2004年撮影）

右は現市庁舎敷地部



N



黄金町駅周辺地区

O



黄金町駅周辺地区（2007年撮影）

P



ふれあいアクアパーク（2021年撮影）

ソフト施策

大岡川アートプロジェクト
 横浜横断カヌープロジェクト
 大岡川桜まつり
 横浜運河パレード

T



横浜縦断カヌーフェスティバル

Q



親水広場でのイベント

R



光と音の
アートフェスティバル

S



大岡川アートプロジェクト
「光のぷろむなあと2016」

U



横浜運河パレード

V



大岡川桜まつり

引用) M~P: 横浜市道路局河川企画課所蔵
 Q~V: 横浜市都市整備局都心再生課所蔵